

アメリカの民間支援団体 Challenged athlete foundation 障害者スポーツの普及・育成に関する研究

トップスポーツマネジメントコース

5017A307-9 木村 潤平

研究指導教員 平田 竹男 教授

1. 研究の背景

本研究は、筆者が14年に渡り、日本代表として障害者スポーツの競技生活を送る中で、アメリカの障害者スポーツ支援団体 Challenged athlete foundation（以下、CAF）の存在を知り、CAFの支援を受ける多くの障害者アスリートと出会い、興味を持ったことから始まった。

まず、筆者はパラリンピック競泳日本代表として、2004年アテネに出場したが、CAFの支援を受けるアスリートであるアメリカ代表の Rudy Garcia-Tolson 選手と出会った。その後、2008年北京、2012年ロンドンのパラリンピックへ出場した際にもCAFの支援アスリートと会った。

さらに、2016年リオパラリンピックでは、CAFがアメリカ人以外の選手も支援することを知り、興味を深めた。筆者はトライアスロン日本代表として出場することになり、日本人初のパラリンピック夏季大会の2競技出場選手となったが、この競技変更は、アメリカの Sarah Reinertsen 選手やオーストラリアの Katie Kelly 選手など、さらに多くのCAFから支援を受ける選手と出会うきっかけとなったのである。

このような経験から、障害者アスリート支援をするCAFは、どのように資金を集め、どのような障害者スポーツ支援プログラムを実施しているのかを研究したいと考えた。

先行研究としては、障害者スポーツの海外における強化の実態は、藤田（2015）と佐藤（2011）は諸外国の取り組み事例を踏まえ、パラリンピック発展モデルについて述べている。また、山口（2015）はカナダの障害者スポーツの現状を探るべく、スポーツカナダ、カナダパラリンピック委員会、カナダスポーツ研究所、アビリティ・センターを調査をした。

しかし、民間支援団体の障害者スポーツの普及・育成に関して、述べられている研究は見当たらなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、アメリカの民間団体CAFの資金調達方法及び、障害者スポーツの普及・育成プログラムを明らかにすることである。

3. 研究方法

アメリカの民間団体CAFの資金調達方法、及び障害者スポーツの普及・育成プログラムを明らかにするため、web調査及び、CAFの関係者へインタビュー調査を実施する。

1) 調査対象

(1) Bob Babbit 氏

(co-founder of CAF)

(2) Travis Ricks 氏

(Sr. Programs Manager at CAF)

2) 調査項目

(1) CAFの設立時からの活動

(2) CAFの資金調達方法

(3) CAFの活動プログラム

(4) CAFの今後の展開

3) 分析方法

インタビュー調査からCAFの発展を項目ごとに分析する。

4. 研究結果

1) CAFの設立時からの活動

CAFは、1994年にトライアスロン選手であった Jim MacLaren 氏の事故をきっかけとして、彼を支援することを目的に始まった。CAFの活動が好感を持たれ、地域の人からの資金援助もあり、1997年に正式に設立され、支援の規模を大きくしていった団体であることがわかった。そのため、確固としたビジネスモデルは存在せず、CAFの精神となる「より多くの障害者アスリートが活動的になること」を掲げ、ボランティアや障害者アスリートとともに、現在の規模に至るまで発展してきたことがわかった。

また、CAFの役員は、設立から現在に至るまで大きな変更は無く、結果が出ている限り、役員の変更を考えていないことがわかった。

2) CAFの資金調達方法

資金調達方法には、イベント収入とスポンサー収入の2種類があることがわかった。イベント収入では、San Diego Triathlon Challenge、100million dollar Challenge、GalaでCAFの資金調達額の多くを占められていた。その他に、Race for Reasonによるイベントなどもあった。

スポンサー収入では、CAFは多くの契約形態を持っており、スポンサー獲得の際に有用なツールは一流障害者アスリートのプロモーションビデオによるプレゼンテーションであることがわかった。

また、CAFがスポンサーから選ばれる理由には、①CAFの精神に大きく共感している、②イメージアップ・税金対策につなげることができる、③アメリカのNPO法人評価サイト「Charity Navigator」の説明責任と事業の透明性が高い、3つの理由があげられることがわかった。

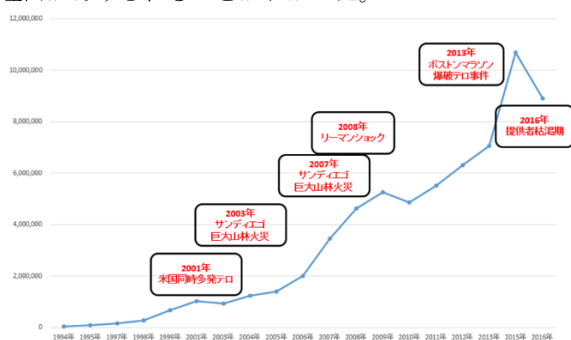


図 1 CAFの活動収益推移と社会的事象について

3) CAFの活動プログラム

CAFには現在、表1に示した、障害者スポーツの普及・育成プログラムがあることがわかった。

表 1 障害者スポーツの普及・育成プログラム

- 1 Access for Athletes
- 2 San Diego Triathlon Challenge
- 3 Operation Rebound
- 4 Catch A Rising Star
- 5 Community Outreach
- 6 Paratriathlete Training

6つのプログラムは大きく2つに分かれており、「障害者アスリートへの資金提供プログラム」と「スポーツ機会の提供プログラム」であった。

表1の1と3は障害者アスリートへの資金提供プログラムであり、2、4、5、6はスポーツ機会の提供プログラムである。

「障害者アスリートへの資金提供プログラム」では、組織団体ではなく、直接個人に対しての資金提供という形が取られており、2017年に42カ国、97種目、2448人に対し、3.7millionの助成金を支給した。また、「スポーツ機会の提供プログラム」でも、2017年はボランティア500人以上に協力を得て、自転車・水泳・陸上などの練習会を23回実施した。

このような支援結果として、CAFが支援したアメリカ国内外87人の選手が2012年ロンドンパラリンピックに出場していた。CAFの活動プログラムは、強化にまでつながっている。

4) CAFの今後の展開

CAFの一番の懸念事項は資金集めであった。この問題を解決するため、ソーシャルメディアを活用した資金提供者の分

析とサンフランシスコやニューヨークに活動地域も広げることにより、今後さらに現在の2倍の規模に成長させていく目標があることがわかった。

5. 考察

1) CAFは、当初より「より多くの障害者アスリートが活動的になること」を掲げ、今日まで活動している。その結果、社会から共感され、資金提供者、スポンサー、アスリート、ボランティアなどの協力を得られていると考えられる。CAFの役員が変わらないことも、基本精神が外れない要因になっていると考えられる。

2) CAFの発展の経過には、勝利・資金・普及という平田

(2017)が提唱するトリプルミッションの好循環が生まれているとも言える。

(1) 前述した通り、ロンドンパラリンピックに87選手を出場させている。1ヶ国に相当するような選手たちを民間団体が活動プログラムを実施することによって、出場させていることは世界の人々へ大きなインパクトを与えている。

(2) 資金面においても、1994年の設立時の49000ドルから、20年間で約180倍にまで拡大させている。CAFの発展は、資金集めの成功が大きいと考えられる。トップアスリートによるプロモーションビデオ出演などによって、多くの人に認知され、支援の輪を拡大させることができたからであると考えられる。また、事業の透明性は、寄付金提供者からの信頼を大きく集めることができていると考える。

(3) 多くのスポンサーを集められた結果、新たな子どもたちやスポーツの機会に恵まれない障害者アスリートに資金提供を可能にしていると考えられる。CAFの設立背景、CAFの役員、資金調達イベントの開催、ボランティア、全てにおいてCAFの一貫した理念と精神に賛同した地域住民の支援があることにより、運営することができており、CAFにとって地域住民のサポートはかけがえのない重要な要素であると考えられる。

CAFは、今後さらなる事業拡大するにあたって、活動地域の寄付提供者や障害者アスリートとの関係作りから始めている。今後、CAFが事業拡大を進めていくうえで、地域住民からのサポートが一番のキーになると考える。

6. 結論

1997年創設されたCAFは、理念と精神は変わらず一貫している。CAFでは、一流障害者アスリートや有名人を活用し、スポンサー集めやイベントでの資金調達を行っている。また、この資金をもとにCAFは障害者アスリートへの資金提供とスポーツ機会の提供を中心とした6つのプログラムを実施することにより、障害者スポーツへの普及・育成を実施している。